
見たな

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

見たな

【Nコード】

N8082H

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

怖がりな私は知らないうちに1人にされてしまった。

私はとても怖がりな女。

1人では出かけられない。

1人でいるのも嫌。

もちろん怖い話は苦手。

聞きたくもないし、体験したくもない。

友人の中には、その手の話が大好きな子もいる。

その子達は、お化け屋敷とか、心霊スポットとか、喜び勇んで行く。

本当は怖いくせに、強がり言い合っている。

私には考えられない性格だ。

もしそんなところに行つて、悪霊に取り憑かれたらどうするつもりなのだろう？

後の事を考えない、浅はかな行為だと思う。

怖がりな女の言い訳なのかも知れないけど。

ふと気づくと、私1人。

どうしよう？ どうしよう？

他のみんなは心霊スポット巡りに出かけた。

今から追いかけるのも嫌だ。

それにそんなところに行きたくないし。

怖い。怖いよ。

足がすくむ。手が震える。

歯の根も合わないほど、口元がガタガタする。

その時、ゴトツと物音がした。

思わずビクンとしてしまう。

足音？ 話し声？

誰かが近づいて来る気配がする。

何？ 何？

私は怖くなって物陰に隠れた。

「そこに誰かいるの？」

「いるなら返事してよ」

若い女の子達の声だ。

すぐ後ろで聞こえた。

私と同世代くらいだろうか？

少しホッとする。大丈夫だ。

私は立ち上がって振り返り、その女の子達に言った。

「見たな」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8082h/>

見たな

2010年10月17日08時07分発行